

牧師所感：

異国で宣教する牧師、宣教師

私、申鉉錫一牧師、宣教師の働きの区分一は牧師であって宣教師ではない。と申しますのは次の理由によってである。筆者は1966年4月16日に正式の入学制になる為に韓国から日本に日本の外務省から入国visaが与えられて入国して来た。

その時はまだ日本と韓国の国交が開かれていなかつたが、奇蹟的にvisaが降りて入国出来た。以来、私は国立音楽大学から、神の思し召しがあって、日本で牧師になった。その後、在日大韓基督教会で牧師として今まで働いている。人、曰く筆者を宣教師と呼ぶが、厳密に言えば牧会者である。

私は最初勉学の目的で来日して牧師になったので、そう呼べるがそうではない。

では宣教師という牧師の定義は私見によれば、韓国なら韓国（本国）から他国へ専ら原住民に宣教する目的で派遣された牧師を宣教師と定義する（呼ぶ）。

ところが牧師と呼ばうが宣教師と呼ばうが、宣教が目的であるから問題があつたとは言えない。牧師は自分が仕える教会員の生活全般（冠婚葬祭等）に対して目を配らなければならぬ。

然らば宣教師が伝道して会員を得て牧会することになれば、その宣教師は牧会者であると認められる。

ところで牧師（牧会者も）・宣教師も過労のあまり、健康管理がおろそかである。つまり心労（申し訳ないが）がたたつて重病になり、病院に入院を余儀なくすることになる。

然るに長年教会を牧会して来た牧師の制度に定年が導入され殆どの教会は70年制が通常になる。定年になった牧師は隠退牧師会が設立され、東京を中心に関東地方に定住する殆どの牧師が加入している。

前にも書いたが、引退後の牧師が病気を患うと殆どの現役の牧師及び宣教師達が一齊に心を込めて神様に祈ってくれる。そのお祈りの御陰で、病気が治り、余生を強く生きておられる。数日前には東京に住んでおられた牧師が末期がんにかられ、その知らせを受けた牧師・宣教師が一齊に力を尽くして祈っている今日である。

ところが2,3日前9月4日に千葉県四街道病院に定期検査の為、脳外科に寄つたところ、お医者様が診察の為MRIを撮るようにと言われた。MRIの結果は脳梗塞が進展しており、すぐ入院して治療すると言われ、即刻入院となった。

入院は9月4日水曜日であった。何日か経てば日曜日主の日である。主の日に礼拝を司り、説教しなければならない。すぐ隠牧会に電話で知らせた。

その知らせを受けた同僚の牧師・長老、その他の教会員から電話が殺到、何と心強いことか！！これがキリスト者の友情である。

Kim牧師よ頑張ってください。僕も頑張るから…。

死を恐れている訳ではない。神様に召される時には喜んで召されたい。

後輩の諸牧師・長老、信徒の励ましの祈り、感謝です。

皆さんに幸せあれと祈る！！